

胎内市総合計画策定に係る市民ワークショップ

第2回ワークショップの報告

1. ワークショップの概要

◎テーマ：まちづくりの方向性の検討

◎日時：2016年3月16日（水） 19:00～21:00

◎会場：胎内市役所 501 会議室

第2回目となる今回は、前回は上回る18名のワークショップ参加者と、前回同様多くの見学者の方々に集まっておりました。

ほとんどの方が既に顔見知りとなっているため、「自然環境」「福祉・健康」「産業振興」の各グループで開始直後から活発な意見交換が始まり、共通するキーワードや様々な具体的な取組が出てきています。現状の整理を行った前回は、まちの課題を見つめて暗くなることもありましたが、未来に向けた話し合いはとても盛り上がるものとなりました。

グループ毎の成果を次頁以降に掲載していますのでこちらも是非ご覧ください。

2. 当日の流れは・・・

①開会挨拶



はじめに、胎内市より開会のごあいさつ
その後の説明は短く切り上げて話し合いへ

②グループ別討議 その1



まず、意見交換の材料となる最初の意見を
付箋に書いて模造紙へ貼っていきます

③グループ別討議 その2



他の人が出した意見に触れることで共通する
イメージや新しいアイデアが見えてきます

④全体発表



発表はみな盛りだくさんの内容になりました
全グループに共通する内容もありそうです

3. 次回の予定は・・・

◎4月13日（水）19時～21時「目標を実現する施策案の検討」をテーマに開催の予定です

各グループとも具体的な施策案まで話が進んでいますが、細かすぎる内容は「総合計画」に書き込めない恐れがあります。次回は、今回出された施策の意図や大事にしたいポイント（基本的な方向性）を意識しながら、第2回の検討内容の肉付けをしていきます。

4. 第2回ワークショップの成果

ここでは、ワークショップの成果の見方をご説明します。

◎本ワークショップは、現在の総合計画の枠組みに則り「自然環境」「福祉・健康」「産業振興」の3グループに分かれて検討を進めています。

- ・「自然環境」グループには、①自然環境、②エコ、③文化・教育 の分野が
- ・「福祉・健康」グループには、①福祉・健康、②少子化対策、③人権・平等、④都市基盤、⑤防災・防犯 の分野が
- ・「産業振興」グループには、①産業、②雇用、③交流 の分野が含まれています。

◎紙面の大部分を占める色のついた箱が並んでいる箇所は、ワークショップの際にテーブルに広げた模造紙の内容を再現したものです。



この4種類の箱は、ワークショップ参加者が
模造紙に貼り付けた付箋を表しています。

ワークショップ参加者の意見・アイディアは通常、黄  の付箋に、
複数の付箋を代表するような意見、キャッチコピー等は青  または緑  の付箋に、
（青または緑の付箋を使用しないで、同じような意見を四角で囲んで表示するグループもあります）
課題に関する指摘は赤  の付箋に 書かれています。

◎男女のイラストから出た吹き出しは、「④全体発表」の中で発表された模造紙の概要説明とこれに対する意見を要約したものです。

※ 付箋の内容は参加者の個人的な見解が書き込まれたものです。また、次頁以降のまとめは一部内容を要約した箇所があります。そのため、一部実際の状況と異なることがありますのでご了承ください。

↓ 第2回ワークショップの具体的な成果は次頁以降をご覧ください! ↓

自然環境グループの発表抜粋



- 今回は山と海がある胎内市の食に関する意見が多く出ました。
- 山側はまず胎内で生まれた名産品の米粉です。SNSを使った魅力の再発信や、その前に米自体がおいしいので米をもっと押ししていこうという意見も出ました。
- 海側はムール貝、そして甘エビよりも甘い泥海老！泥海老は鮮度の落ちが早くここに来なければ食べられないものです。
- 知れば知るほど色んなものがあるので、「知れば知るほど住みたくなるまち」をキーワードとして考えました。

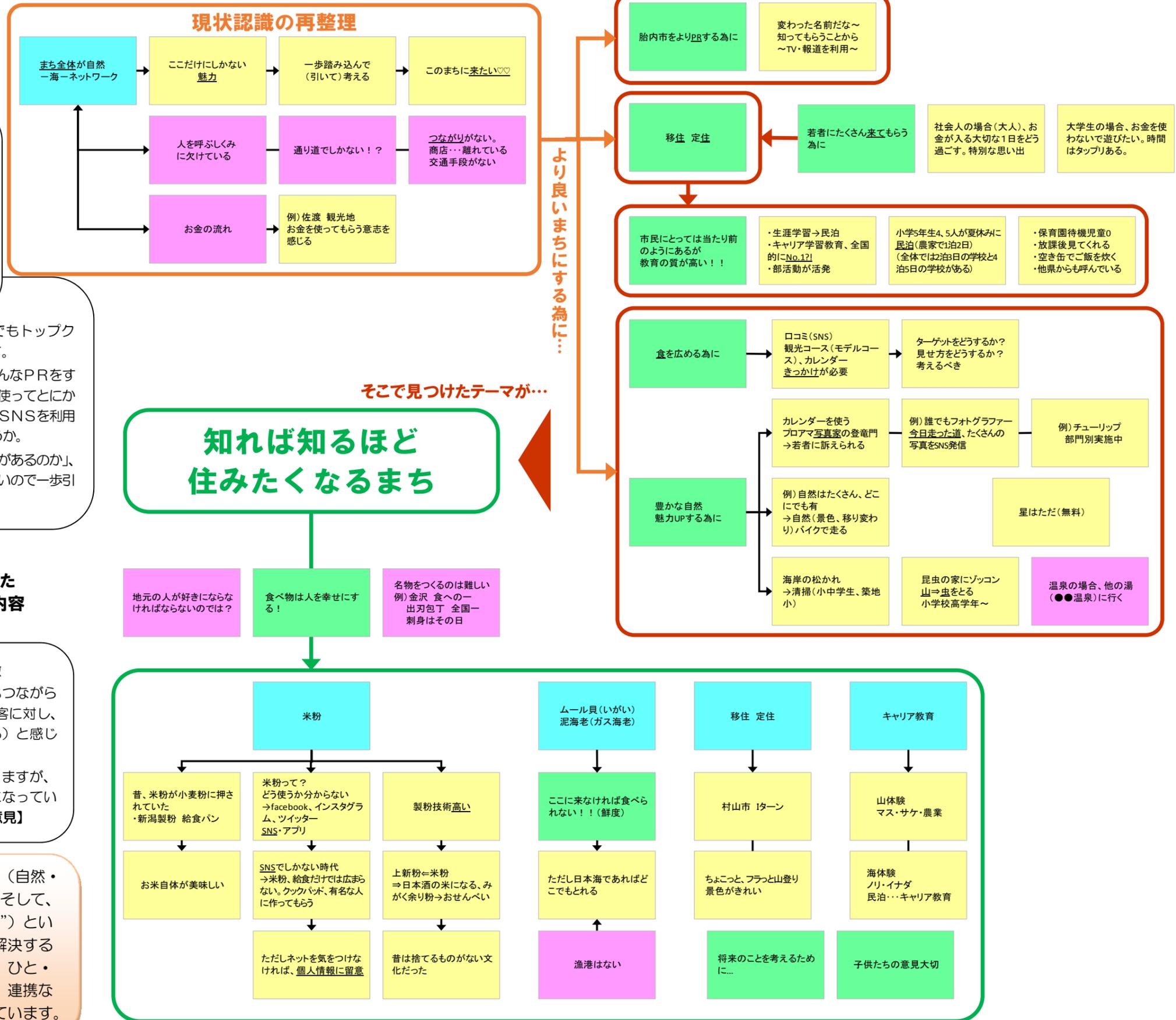
- 教育に目を向けると、小学生のキャリア教育をはじめ全国でもトップクラスの質の高い教育があり、子育てにも向いている地域です。
- 子育てなどを切り口にもっと多くの人に来てもらうためにはどんなPRをすれば良いかという観点では、「胎内」という変わった名前などを使ってとにかくまちのことを知ってもらおう「テレビ・報道を利用しよう」「SNSを利用しよう」というところから始めていけば良いのではないのでしょうか。
- 移住の前の遊びに来る段階については「お金を使ってもらうお店があるのか、どんなお店があれば良いかを考える時には「中の人では見えづらいので歩いてもう一度胎内市を見てみよう」という意見が出ました。



他のグループから見た特に良いと感じる内容

- 中条に来ないと食べられないドロエビがあると知って感激
- 地元市民が地元の事や物に対して何も知らないと発信にもつながらず、観光客に聞かれた時の対応にも影響が出る（観光客に対し、つまらない思いをさせたり、また来ようと思われなくなる）と感じました
【全グループに共通する意見】
- 私たち B グループは事業として動き出すとお金がかかりますが、A・C グループさんの意見が実践されると経済的に豊かになっていきたいと思います
【A・Cの2グループへの意見】

地域資源のキーワードと課題（「胎内市にしかないもの（自然・食・教育）」、「来て、見て、味わい、過ごす（観光）」、そして、「知れば知るほど住みたくなるまち（胎内市への移住）」といった課題が見えてきました。次回は、これらの課題を解決するための具体的な施策案（例えば、地域資源の活かし方、ひと・もの・金・こと、情報発信、市民・企業・行政の役割、連携など）の具体的な進め方について、検討できればと考えています。



福祉・健康グループの発表抜粋



- 前回も出ていた「困っている人に情報が届かない」という課題から話を始めました。
- 情報や施設が点在している状況に対して、人も施設も結んでいき、点から線、線から面へ広げていきたいと考えました。

- そこで重要なのが①人も施設もオープンで、②誰でも色々な形で利用ができて、③そこに行けば何でも情報が手に入るワンストップであること。そのためには④大きな施設で対応するよりマイナーチェンジでも良いだろう というのが共通意見です。

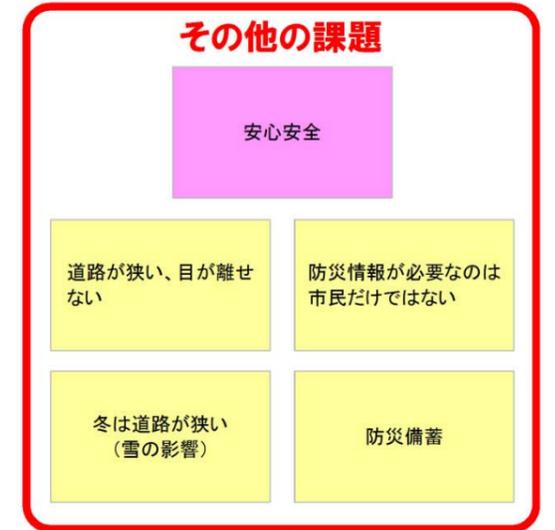
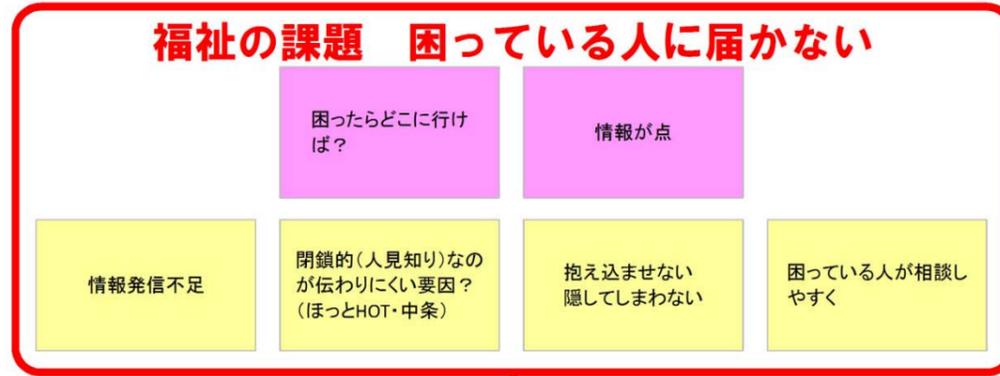
- 具体的には、最近できたシェアハウス（「ギルドハウス」）のような建物のリフォームによる場所づくり、ほっとHOTももっとオープンになれば利用範囲を拡大できそうです。
- 人についても同じ事で、自分に何ができる、私はこれができる／これがしたいという人材バンクのようなものがあるといいんじゃないかというアイデアが出ました。

他のグループから見た特に良いと感じる内容

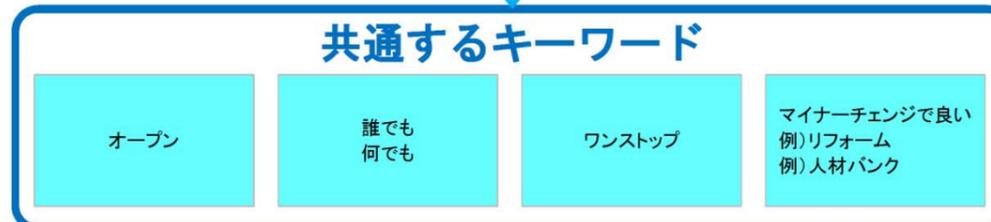
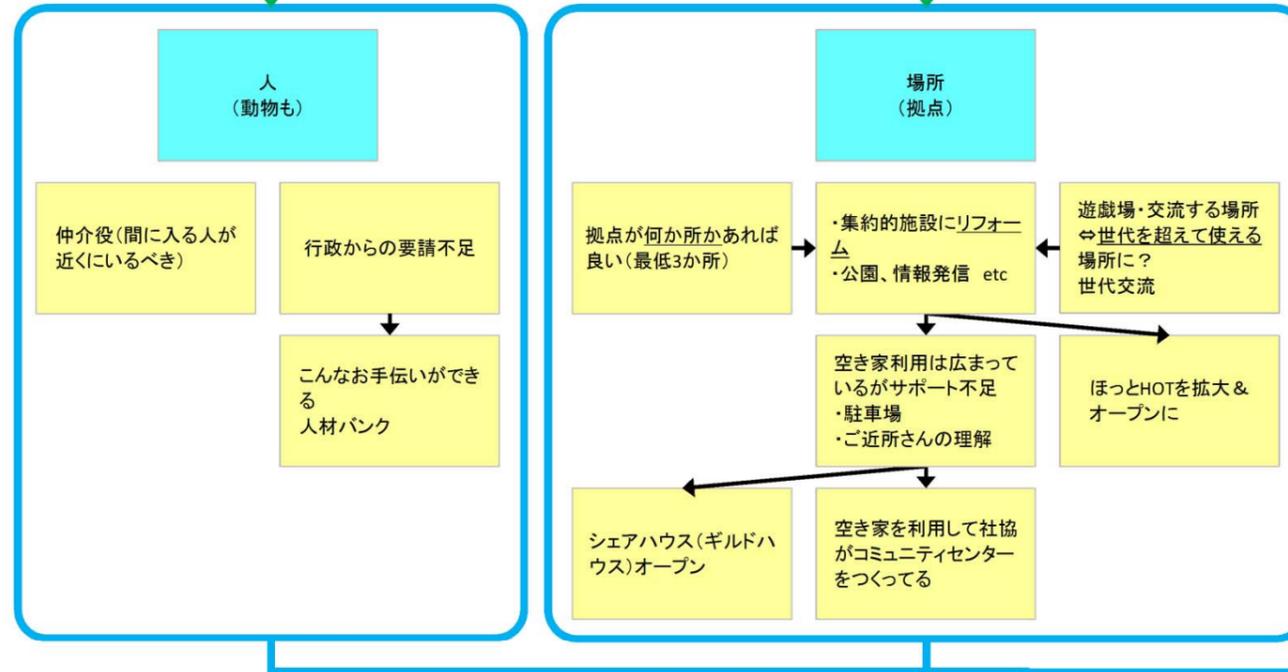


- 点から線にする発想はとても良いと思う
- 点から線へ、線から面へのまちづくり。その為にオープンな場所や人、マイナーチェンジ、ワンストップを考えるという点が具体的に課題を解決できそうで良かった。
- オープンな人と場所、ワンストップ、マイナーチェンジ
- 福祉関係の施設を誰でも使えるようにオープンにすること

全体に共通するキーワード（基本的な方向性）が見えてきたので、次回は特に意見が多く出た施策案（人→人材バンク、場所→空き家利用等）の肉付けを中心に話し合いを行います（例えば、具体の機能や行政の役割・住民の役割等）。また、今回あまり触れられなかった「健康寿命」や「専門的なサポート（障がい福祉等）」についても少し時間を割いて検討し、キーワードを文章化できればと考えています。



具体的な取組のアイデア



4. 第2回ワークショップの成果 ③産業振興グループの成果

産業振興グループの発表抜粋

- 農業・観光・商業・雇用という色々な側面から具体案を話し合いました。



- 農業**
- 後継者不足に対しては、農業学校をつくって農業をする人を募集する、農家のための婚活を開催する等の取組を市全体でやってみる。
 - 特産品の活用については、成功した地域に学ぶ、一流シェフの手を借りる、「胎内」にかけて母体に安全・安心なブランドをつくる等の付加価値をつける工夫に関する意見が出ました。

- 観光**
- 施設の清潔さや迎える人の笑顔など来てくれた人が「また来たいな」と思わせる場所がつかれるか考えたいと思います。
 - 例えば、普通のおばあちゃんが「うちの地元のここを見ていけ」と言うような誰でもおもてなしができる状態ができると良いのではないのでしょうか。

- 商業**
- とにかく人が歩ける商店街にして欲しい。
 - お店をやりたいという若い人に安く貸す等によりお店をつないでいく、週1回コンパを開く「必ず飲むまち」等のアイデアで活性化を図ることを考えました。
 - 付箋には書いていないが「地下鉄をつくる」という案も出ました。

- 雇用**
- 例えば、中条高校の生徒と市内の電気屋さん、建設業等の方々等と一緒にものづくりをする。そこで職場の良さを知ってもらって、最終的に胎内市で働きたいと思ってもらう。
 - こうした雇用の促進の取組を産学連携でできれば良いと思います。

- 4つのテーマに共通する視点**
- 人を呼ぶにもインパクトが必要なので、今あるものから「日本一〇〇な胎内市」のようなキャッチフレーズを探してつける。そういう発信をしていくべき。
 - そして、食だけでなく、観光も家を建てるのも特産品を使うのも、全てが地産地消となるまちづくりができれば魅力的な産業振興になると考えています。

他のグループから見た特に良いと感じる内容



- 提案内容が具体的で良かったです。
- 地産地消、「日本一〜」づくり、跡継ぎ募集と起業など。BtoB、BtoCの橋渡し。
- WS 参加者全員で市内を歩いてアレコレ良い物・良い所を見つけてみよう。隠れた魅力探し！
- 既にあるものを利用
- 「胎内」という名前にかけて付加価値を生み出すという案、産学が連携する（企業×中条高校）という案が、何か新しいものをつくったりせず、今あるものをかけあわせて市の活性化につなげられそうで良い。
- 商店街を通りやすい街へ。発信方法が求められるという意見であったが、受ける側に向けた情報発信が大切かな〜。

共通するキーワード（“地産地消のまち” “日本一の〇〇な胎内市” など）を中心に各分野の課題が見えてきましたので、今回はこれらの課題を解決するための具体的な施策案（例えば、特産品のブランド化や情報発信の方策など）と重点的に取り組むべき施策のアイデア、市民や企業、行政の役割などについて検討し、キーワードを文章化できればと考えています。

